

# 三中だより

令和4年度 9月号



令和4年9月28日発行  
荒川区立第三中学校  
(学校通信 No. 8)  
校長 小柴 憲一

## 後から現れる教育の力

本校は、令和2年度から道徳科の研究をしてきており、9月9日(金)にオンラインで研究報告会を開催いたしました。

荒川区内の教員対象に授業をライブ配信で公開したところ、「声が聞こえなかったのが残念だった」という指摘はあったものの、「子どもたちがグループで積極的に議論していた」「教員の問い返しで子どもたちが葛藤する場面があってよかった」などの感想をいただいております。

その報告会では、3年間本校の研究に対して懇切丁寧にご指導をいただきました明星大学教授の大原 龍一先生にご講演をしていただきました。そのご講演の最後に、大原先生が一通の手紙の全文を読み上げました。その手紙は、知り合いの先生が卒業した教え子から送られた手紙だったのですが、それが視聴されていた先生方から大反響を得ました。

以下、その手紙を紹介いたします。ほぼ原文通りにしてあります。

先生お元気ですか。

ぼくは、3月から印刷工の見習いとしてつとめています。中学校を卒業して、もう3年も経ったのですね。あつという間でした。

ぼくは中学校を卒業してから6回も職をかえました。卒業してすぐつとめた会社は3ヶ月もしないでやめてしまい、それからダンプの助手、ガソリンスタンドの店員やサテンのボーイなど、いろいろやりましたが、みんな長つづきしませんでした。

そのぼくがなぜ、こんど印刷工の見習いなんかやることにしたのか。それは、ぼくも、先生が中学校時代によく言っていた「人間としての誇り」をもって生きたかったからです。いつまでもいいかげんなことをしていたら、自分はいったいどんな人間になってしまうのだろうと、とても不安になったのです。一人前の人間として「半ば」でなく「一人前」として誇りを持って生きていきたいのです。ぼくは先生にもずいぶんめいわくをかけたワルでしたが、最近になって、なぜか急に道徳の授業がなつかしく思い出されるのです。3年の時、先生のクラスになって道徳をずいぶん教わりました。そのとき、配ってくれた資料は今でも、ファイルにしてとってあります。特にいいのは「たびの季節」や「最後の一片」「お月さんが見ている」です。今読んでもジーンときます。英語や数学なんかはほとんど忘れてしまいましたが、道徳でならったことは、今でもおぼえています。先生は道徳の時間に「人間は弱いもので、ついいいかげんになってしまう。しかし決してそれで満足をしている人間はいない。どんなワルでも、できればもっとよい人間になりたい、みんなに信頼されたいと心の底で願っているものだ。」というようなことを言いました。その時、ぼくはワルだったので、とても心にひびき「今のオレのことをいっている」と思いました。

社会に出て、いろいろやってみると、自分がしっかりするしかないってことがわかりました。道徳でやったことが、今とても大事だという気がします。道徳でやったことは、社会に出てみると本当にその通りです。今までいろいろ好き勝手にやってきたけど、最近になって、ぼくはいったいなんのちがある人間なのかと考えました。いろいろ職をかえてもうまくいかない、なんか心の中でやけになっているような気がします。ぼくもしっかり腕に技術をつけ、人に負けず一人前になりたいと思います。はずかしくない人間になりたいと思う。もうワルはあきました。ワルをやっている満足したことなんか1回もない。ワルをやればやるほどいやな思いが残る。そこで、心を入れかえて見習いからやり直そうと決心したのです。いつまで続くかわかりませんが、今度はぜったいつづけようと思っています。

「たびの季節」の中の人のように、自分のワルをやったことは消えないと思いますが、2度とワルをしないように、一生けんめい努力しようと思っています。今からでもいいですよ。

なぜこんなことを書く気になったかという、3月13日の読売新聞に、ある中学生が書いた記事がのっていました。それは、中学校で1回も道徳の授業を教わらなかったという不満でした。

中学校で、道徳をやっていない学校ってあるんですか。ぼくはこの記事を読んで、その子も道徳を教わりたかったのだ、どういう生き方をすればよいのか教えてほしかったのだ、と思います。社会に出て、いい人間として生きていく方法を勉強したかったのだと思います。その記事を読んで、急に先生に教わった道徳を思い出して手紙を書きたくなったのです。

校内暴力があって今の中学校はたいへんですが、どうして道徳をやらないのでしょうか。道徳でとてもいい話を聞いたりすると、いつまでも心に残るし、自分もそうなりたいと思う。なかなか実行できないのですが…。

先生はいつまでも道徳の資料を作って道徳を教えてあげてください。きっとぼくみたいにファイルにとじて大事にして、ときどき読みかえしてみる生徒は他にもいると思います。

校内暴力で思い出しましたが、ぼくも中学校の時、校内暴力を起こしそうになりましたね。先生おぼえていますか。トイレや教室のドアをぶっこわしたこともあるし、授業中、あれは国語の時間にぼくがマンガを読んでいて、国語の先生に注意をされた。ぼくが「どうせオレはワルだよ。タイマンはれよ。」と先生にくっついてかかっていたら、〇〇先生が短い足でとんできて、事情を少しいて、急に僕のむなぐらをつかんで大声で「なんだその態度は。自分が悪いと知ってて、先生にくっついてかかって、それでお前の心はスッキリするのか。お前の眼玉は、オレが悪いといっている眼だ。もっと素直になれ。今素直にならないとお前は一生、自分の心にうそをつくことになるんだぞ。情けない人間になるな！」というようなことをいった。その時、先生は、なみだをながしながらおこっていましたね。なみだを流しながらおこられたのはその時がはじめてでした。その時「この先生は本気でオレのことをおこってくれているんだ。」と思いました。それで国語の先生にくっついてかかるのをやめてあやまりました。そのおかげであとでいやな気持ちにならずにすみしました。

あの時、なみだをこぼしておこってくれたことは、一生わすれないと思います。ぼくも将来、家庭をもって子どもが大きくなって、子どもがワルをしたとき、なみだを流しておこれる親になりたいと思います。なれるかな…。

話が横道にそれてしまいましたね。

道徳って知識じゃないんだけど、なんていうのか、信念っていうのか、いつまでも心に残っている。できればぼくも、教わったような人間になりたいと思います。

でも、いつもいいかげんで思うようにいかないのですが、先生も「ぼくもいいかげんでいつも後かいばかりしている。だから、またよりよく生きたいと思うようになるんだ。だからみんなといっしょに道徳の勉強をするんだ。」と授業のときいっていましたね。ぼくも、そういうくり返しかもしれません、一生けんめい生きようと思います。中学時代からワルだったぼくが、こんなこと考えるのはダサイのかな。今度ぼくが結こんるときは、なん年先かわからないけど呼びますから、きて下さい。

先生はいつまでも先生でいて、道徳やテニスや美術を教えていってください。

それでは、お元気で、さようなら。

※人名の箇所は伏せさせていただきました。

手紙の文面からは、やや昔の中学校の風景が思い浮かびます。当時は、学習指導要領上、現在の「特別の教科 道徳」ではなく「道徳の時間」だったと思われます。ただし、名称は変わっても、子どもに対して両者の目指すところに大きな変化はありません。

以下、私の感想・考えと本校の取り組みを紹介します。

### ●手紙の著者は「人間としての生き方」を追求している

文面の中からは「人間」「生きる」という用語が頻りに登場してきています。これは、小学校の道徳科の目標が「自己の生き方について考える」に対して、中学校では「人間としての生き方を考える」となっているからであり、手紙の著者の恩師は、まさに「人間としての生き方」を考えさせるため、「人間の弱さ」についても子どもたちに考えさせていたものと思われます。実際に、この先生ご

自身が、「人間は弱いもので、ついついいい加減になってしまう」「僕もいい加減でいつも後悔ばかりしている」と、人間の弱さや自分自身にも弱さがあることを子どもたちに話しています。道徳科では、「理屈では分かっているけど実際に行動するのは難しい」「どちらの考え方も賛成できるけど、どちらの方がこの場にふさわしいのか」など、人間だからこそ葛藤してしまう場面を通じて、自分の言動を選択していきます。

#### ●集団で学ぶ必要性

そのためには、個の学習では完結することはできず、常に他者はどのように感じ、どのような考えをもっているのかに触れ、前向きな議論をしていかなければならないのです。これらの道徳科の学習を「考える道徳」「議論する道徳」といいます。手紙の著者は、きっとそのような授業に多く参加することができたのだと思います。

#### ●授業者は教え込んではいない

手紙の著者は「教えてもらった」という表現をしていますが、この先生が「この考え方は正しくて、この考え方は間違っている」とか「この生き方は望ましい生き方で、この生き方は惨めな生き方だ」のような特定の価値観を押しつけたはずはなく、きっと「考えさせられ」「友達の意見に触れた」ことを「教えてもらった」と表現しているのだと思います。

#### ●手紙の著者にはメタ認知力が養われている

また、手紙の中で「僕はいったい何の価値がある人間なのか」「なんか心の中でやけになっているような気がします」と自分自身の内面を客観的に振り返っています。これはメタ認知といい、道徳科の授業の中では文字や発言に現れなくても「自分にはそれだけの行動力がないんじゃないのかなあ」「自分にはその人間関係を修復する技能があるんじゃないのかなあ」「自分にはそれだけの強い意志はないんじゃないのかなあ」など、教材から離れて自分事として考える瞬間があり、その習慣が身に付いたものと思われます。

#### ●他の教科でも学ぶ過程に意義がある

国語・社会・数学・・・などの教科の授業も重要だというのは当然です。ただし、高等学校等に進学すれば、これらの知識・技能は上書きされていくため、例えば「中学校で学習した数学の知識・技能が今でも忘れられない」ということはあまりありません。このことは手紙の著者も述べている通りです。

しかし、国語・社会・数学・・・でも、考えたり悩んだりして結論を導き出した過程は忘れるものではなく、次の段階の学習や他の分野の学習、あるいは日常生活でも生かされるのです。ですから、本校の授業では、結果だけを評価する授業はしていません。理科でいえば実験・観察後の様々な考察、数学でいえば解が正解であることをどのように説明・証明できるか、美術であれば作品が完成するまでのアイデア・材料の生かし方・鑑賞を経てさらに自己の作品の完成度を上げる過程など、様々な過程がいずれの教科でも評価されています。

#### ●本校では「後から現れる教育の力」を高めている

これらの各教科の結果に至るまでの過程で身に付く力を「生きて働く知識」と言い、手紙の著者が道徳科で学んだことが卒業して3年後によみがえってきたように、学習したときは内面の成果として現れなくても、卒業後など後になって現れてくる教育の力となります。

本校の研究報告会は直接保護者の皆様方に還元されるものではありませんのでご説明することはいたしません。道徳科の研究を通して、すべての教育活動において、「後から現れる教育の力」も高めております。

なお、10月4日(火)6時間目は、道徳授業地区公開講座として道徳科の授業を公開しておりますので、今の、そして本校の道徳科の授業はどのようなものなのかご覧になってみて下さい。特に、お子さんの心の動きに注目しながらご覧になると分かりやすいかもしれません。

## 連合体育大会で活躍した三中の代表者

9月22日(木)に江戸川区陸上競技場において、3年ぶりに第74回荒川区立中学校連合体育大会が開催されました。夏休みの終盤から練習が始まり、2学期になってもほぼ毎日放課後の練習を積んで選手たちは臨みました。また、選手ではなくても選手係として選手をサポートする子どもたちも一生懸命役割を果たしていました。

成果につきましては、「お知らせ」の欄の通りですが、以下の表の参加した24名の選手団と6名の選手係は三中の代表者としての実績を残し、とても立派な活躍ぶりでした。

1年		2年		3年	
氏名	種目	氏名	種目	氏名	種目
松田 理希	1女800m 1女リレー	大橋 由菜	2女リレー	新井 琉夏	3女リレー
渡部 航太	共通男400m 1男リレー	山本 さくら	共通女200m 2女リレー	田尻 夏葵	共通女800m 3女リレー
今福 康介	1男1500m 1男リレー	相吉 朝陽	共通男砲丸投 2男リレー	加藤 あめり	3女100m 3女リレー
杵島 輝	1・2年女走幅跳 1女リレー	岡本 昇亜	共通男3000m 2男リレー	別府 優虹	共通女走高跳 3女リレー
今井 希美	1女リレー	小久保 凱登	共通男200m 2男リレー	矢野 一杏	3女走幅跳 3女リレー
加藤 アンジェ	1女100m 1女リレー	近藤 美羽	共通女1500m 2女リレー	山岸 菜乃	共通女砲丸投 3女リレー
丸谷 周	1男100m 1男リレー	バログン ハル	2女100m 2女リレー		
金澤 昂大	1男リレー	伊東 ジャスティン	2男100m 2男リレー		
		矢嶋 凌虎	共通男走高跳 2男リレー		
		名倉 綾乙	1・2年走幅跳 2男リレー		
辻 里紗子	選手係	保科 菜月	選手係		
湯浅 梨央	選手係	新井 琉南	選手係		
朝日 心菜	選手係	清野 まいあ	選手係		

### お知らせ

- 荒川区女子バレーボールシード権大会において、以下の成績を収めました。  
第3位
- 第71回荒川区民体育大会・バレーボールの部で、以下の成績を収めました。  
第3位
- 第74回荒川区立中学校連合体育大会において、以下の成績を収めました。(3位以内)  
男女総合第3位  
2男100m 第1位 伊東 ジャスティン(12秒60)      1男1500m 第2位 今福 康介(4分52秒53)  
1男リレー 第2位(51秒80)  
1女100m 第1位 加藤 アンジェ(14秒28)      2女100m 第1位 バログン ハル(13秒04 大会新)  
共通女200m 第1位 山本 さくら(28秒96)      1女800m 第2位 松田 理希(2分43秒52)  
共通1500m 第3位 近藤 美羽(5分47秒90)      3女走幅跳 第3位 矢野 一杏(4m12cm)  
1女リレー 第1位(56秒00)      2女リレー 第1位(53秒74)      3女リレー 第2位(57秒35)